

中四国DXサミット 2025

7月15日(火)、広島市にあるコワーキングスペース「Hiromalab」にて、中四国の企業のDX推進を目的に「中四国DXサミット2025」が開催され、オンライン参加含め約180人が参加した(主催:(一社)中国経済連合会・(株)INDUSTRIAL-X、後援:四国経済連合会、協力:中国地域DX推進支援ネットワーク)。本サミットは「基調講演・パネルディスカッション」と「ネットワーキング・個別相談会」の二部構成で実施された。

第一部では、(株)INDUSTRIAL-Xの八子氏より、「企業変革への新たな機会と脅威“AIインパクト”」をテーマとした基調講演が行われ、その後、①デジタル、②事業変革、③DXハウツーの3つのセッションでパネルディスカッションが行われた。

①のデジタルセッションは、デジタル化・業務改善の取組みにフォーカスするもので、業務デジタル化を進めるヒントを持ち帰ってもらうことを期待して企画。四国化工機(株)(徳島県)の植田氏と(株)内海機械(広島県)の内海氏が登壇した。

最初に、それぞれから会社の概要やDX推進の取組み事例を紹介。その後、モデレーターの中山氏の進行によりパネルディスカッションが繰り広げられた。

目指すべきゴールに向けた組織のリードについて、四国化工機(株)は「DXにより、生産性を1.5倍へ向上する」という社長の号令のもと、各部署が切磋琢磨し、リテラシーの高い若手の意見を積極的に取り入れるなどしてDXを推進したことを説明。具体的には、自社で製造する豆腐の検品作業へのAI導入や、充填機等の監視へのIoT活用などのほか、これらの経験やノウハウを機械事業部門に還元し、予兆保全など他社のメンテナンス提案に活かす取組みなどが挙げられた。

また、金属加工を行っている(株)内海機械は、

工場の稼働率を計測し、まずは見える化を推進していることを説明。実績の定量化を図るとともに、取組みが先進事例としてマスコミなどに取り上げられることで、社員のモチベーション向上などDXの好循環が生まれているといった事例も挙げられた。

中四国DXサミット2025

“取り組み”を“変化”につなげ、行動のヒントを掴む

パネルディスカッション1

業務変革の第一歩 — データと現場がつながる仕組みづくり



左から内海機械・内海氏、
四国化工機・植田氏、モデレーター・中山氏

②の事業変革セッションでは、(株)クレスコ(岡山県)の川井氏、(株)広島メタルワーク(広島県)の前田氏が登壇。デジタル化で蓄積したデータやノウハウを活用した新規事業開発にフォーカスしたパネルディスカッションが行われた。③のDXハウツーセッションでは、(株)インターパーク(北海道)の船越氏、一般社団法人中国地域ITCネットワーク児玉氏が登壇。各企業に合ったDXの実施方法を見つけていく重要性など、支援者視点でパネルディスカッションが繰り広げられた。

その後、第二部では、登壇者と聴講者が直接、会話のできるネットワーキングの場が設けられた。軽食を交え、リラックスした雰囲気で見聞交換している様子が見られた。(担当:中内)



「中四国DXサミット2025」の様子